

ある短歌の話

同窓会会員：植地 勢作

投稿日：2018年6月25日

平成26年以来、渋沢記念財団の機関紙『青淵』に連載を続けてきた『評伝 藤原銀次郎』も最終回（18回目）を迎え、その原稿を書き終えたところで、『閑話休題』、一息入れてある短歌を紹介いたします。

今年の歌会始のお題は「語」でしたが、短歌を嗜まない私は、入選者の中にカリフォルニア州の方がいることは新聞で見えていましたが、気にも留めませんでした。

4月になって、藤原銀次郎伝の資料収集でお世話になっている私の友人鈴木君と二人で、新装なった大磯の吉田邸を見学した際、「カリフォルニアに住んでいる私の義姉が今年の歌会始に入選したよ」とポツリと口にしました。

駅まで送った帰り際、彼は、「平塚の金田公民館というところにカリフォルニアに住んでいる義姉の母のことを読まれた香淳皇后の御歌の顕彰碑がたっているので、そこに立ち寄ってくる」と言って別れました。

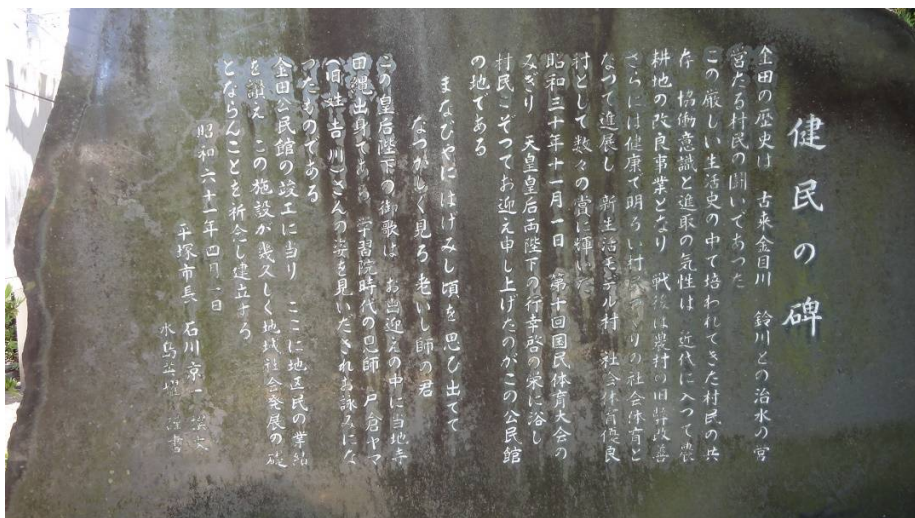
しばらくして、「最終バスに間に合わないため『金田公民館』へ行けなかった」というメールが入りました。私は金田公民館というのはどこにあるのか知らなかったが、調べればわかると軽く請け合い「じゃあ、僕が行ってくるよ」と返事をしてしまいました。

インターネットで地図を検索したところ、その公民館は花水川添いにあることが分かり、早速出かけました。

くだんの顕彰碑は、香淳皇后が大磯を行幸されたとき、作られた御歌が彫られており、さっそく写真に収めて友人に送ってあげました。友人はその写真をカリフォルニアの義姉に送ったところ「義姉は、『こんなにきれいな写真を送ってくれた』と涙を流して喜んでくれた」と伝えてきました。



平塚市金田公民館



顕彰碑

顕彰碑をご覧ください。香淳皇后の御歌は

まなびやに励みし頃を思い出でてなつかしく見る老いし師の君

碑にもあるように、光淳皇后の学習院時代の恩師で、引退して故郷に帰っていた戸倉さん（旧姓吉川）を大勢のお出迎えの中から見つけて詠まれたものです。

金田公民館と、顕彰碑の写真を添えておきますので、皇后の心温まる御歌をご鑑賞ください。さて、歌会始に入選された、カリフォルニア在住の鈴木さんの歌をご紹介します。

米国カリフォルニア州 鈴木敦子さん（82）

母国語の異なる子らよ母われに時にのみ込む言葉もあるを

一寸分りにくいのでその意味を鈴木君に尋ねたところ、義姉敦子さんは夫とともに早くにアメリカに渡り向こうで子供を育ててきたので、子供たちは日本語を話さない。日本語のわからない子や孫と話をするとき、時には言葉に詰まってしまうということを詠んだ歌だということでした。鈴木さんは米国で随筆などを書き、現在も矍鑠として活躍しておられるそうです。

少し補足しますと、鈴木君の名は正慶、私の大学時代の同級生、鈴木君の父は台湾製糖の藤山雷太の部下、正慶君の長兄は藤原銀次郎の養女の長女と結婚しています。

取り留めもない雑文ですが、香淳皇后、米国在住の鈴木さんの想いを汲み取っていただければ幸いです。

以上